

6. 令和元（2019）年度コウヨウザンの実証的植栽及び生育状況等調査

（1）目的

コウヨウザンの利用が期待される地域においてコウヨウザンを植栽し、植栽後の生育状況等について調査を行い、得られた結果を評価し、これからの早生樹導入に向けたガイドライン作成に必要な情報を整理する。

（2）実証植栽地の選定

実証的植栽地の選定に当たっては、当該事業に理解を示し土地提供等の協力が得られること、苗木運搬・植栽が可能な地域であることを条件に、気候の異なる地域を選定した。植栽面積はそれぞれ概ね 0.5ha とし、山口県周南市の市有林伐採跡地、徳島県三好市の県有林伐採跡地、熊本県水俣市の県有林伐採跡地に植栽した（表 5-1、図 5-1）。

表 6-1 令和元年度コウヨウザン新規実証植栽地一覧

No.	苗木種	場所	実施事業体	苗齢 (年生)	植栽本数 (本)	植栽密度 (本/ha)	植栽面積 (ha)	備考
1	コンテナ苗	山口県周南市	周南森林組合	1	631	736	1,600	0.46
				2	105			
2	コンテナ苗	徳島県三好市	株式会社 山城もくもく	1	692	800	1,600	0.50
				2	108			
3	コンテナ苗	熊本県水俣市	水俣芦北森林組合	1	942	1,050	2,100	0.50
				2	108			

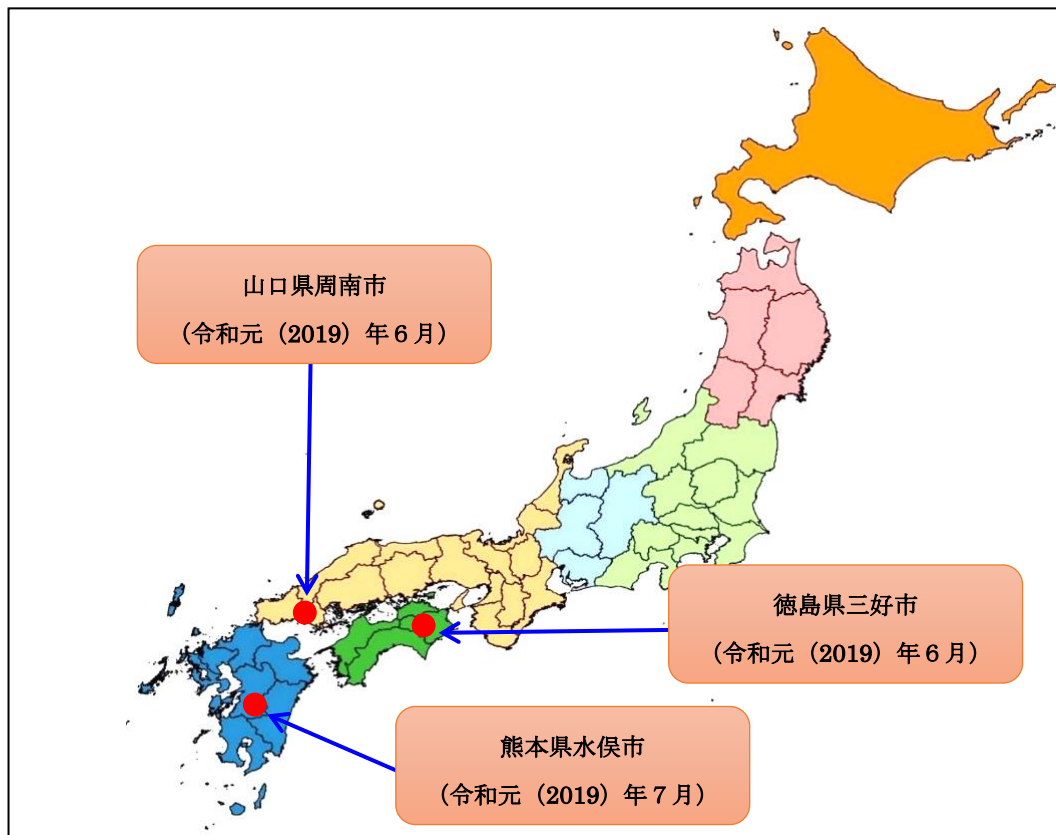


図 6-1 令和元（2019）年度早生樹新規実証植栽地位置
(カッコ内は植栽年月)

(3) 苗木の入手

コウヨウザンの苗木は一般財団法人広島県森林整備・農業振興財団からコンテナ苗を入手した。

(4) 調査項目

① 苗齢別の生存率及び成長状況の違い

苗齢別の生存率及び成長状況の違いを調査するため、各植栽地において1年生苗と2年生苗の調査プロットを設け、植栽直後(6~7月)及び成長休止期前(10月)に現地調査を行い、根元径及び樹高を計測し、植栽木の状況を記録した。

② ノウサギ防除処理区別のノウサギ被害率及び成長状況等の違い

ノウサギ防除処理区別のノウサギ被害率及び成長状況等を調査するため、各植栽地において無処理区(上記①の調査プロットと同様)、忌避剤区、単木防護区を設け、ノウサギ防除直後(植栽直後の6~7月)及び成長休止期前(10月)に現地調査を行い、根元径及び樹高を計測し、植栽木の被害状況を記録した。

なお、ノウサギの防除手法は忌避剤及び単木防護ネットとし、忌避剤としてコニファー水和剤、単木防護ネットとしてジュウガードSを使用した(写真6-1,2)。

	
写真 6-1 本実証植栽地で使用した忌避剤 (コニファー水和剤)	写真 6-2 本実証植栽地で使用した単木防護ネット (ジュウガード S)

③ 植栽作業の人工数

植栽時に無処理区の苗齢ごと植栽時間を記録し、苗齢による植栽作業人工数の違いを調査した。

④ 地拵えから植栽までのコスト

地拵えから植栽まで、実際にかかったコストを苗齢ごとにまとめ、苗齢によるコストの違いを調査した。なお、植栽コストは、③の結果を基に苗齢別に按分して算出した。

⑤ 地拵え及び植栽の生産性

地拵え及び植栽について、実際にかかった人工数から各地域における生産性を算出した。

⑥ ノウサギ防除作業の人工数

ノウサギ防除作業実施の際、防除手法ごと防除作業時間を記録し、防除手法による作業人工数の違いを調査した。

⑦ ノウサギ防除のコスト

ノウサギ防除にかかったコストを防除手法ごとにまとめ、防除手法によるコストの違いを調査した。